

* 研究目的

代表的な深度センサーである「キネクト」は、ゲーム用入力デバイスとして開発されたものであるが、多点の距離が同時に測れる3次元距離センサーとしての機能を生かして、姿勢やアライメント(骨の配列)を自動計測し、加齢による退行性の整形外科疾患(変形性関節症など)のリスクを予防するためのアドバイス等を行うシステムを開発する。

それにより、これまで医療機関でX線撮影を用いて評価されていた経年変化が、医療機関以外でも被爆することなく評価することが出来る。本システムの開発により、高齢化社会に伴う医療機関の不足の解消や、医療費軽減に貢献することが出来る可能性がある。

プロトタイプ作成後は、このシステムを試用して、性能の向上を図る。

* 研究チームメンバーと研究課題

田中雅博	知能情報学部・知能情報学科 教授	システム開発、とりまとめ
曾我部晋也	スポーツ健康科学教育研究センター 准教授	計測ポイントの研究と実験の実施 及び、姿勢評価及びフィードバック システムの開発